

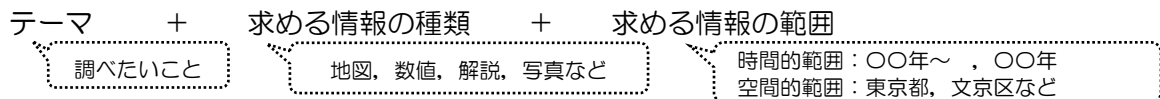
## No.3 インターネット資料の検索

### 1. 適切な検索エンジンやデータベースを利用させる

- 小学校の低・中学年は子ども向け検索エンジン(「Yahoo!きっず」など)を利用する。ソフトキーボードでひらがな入力ができるものもある。
- 公的機関には子ども向け Web サイト(「キッズ外務省」など)があるので、目的に応じて適切なサイトを利用させる。
- 教科書の QR コードにより紹介されている Web サイトを参考にする。
- データベースは Web サイトと違い、責任編集されているものが多く、信頼性が高い。  
初めは「ポプラディアネット」のような子ども向け事典データベースから、検索に慣れさせていくとよい。
- 高校では学術情報データベース(「CiNii(サイニイ)」など)を利用させている学校もある。

### 2. Web ページの検索

- ①キーワードは複数用いて、絞り込んでいくとよい。



例：「高齢者 人口 2020 年」「高齢者施設 地図 東京都」

- ②語の意味や定義を調べる時には「とは」を入れる。
- ③キーワードのほかにその情報を発表している省庁名や協会・機関の名前などを入れる。  
例：「花粉症 気象庁」「京都 観光協会」
- ④「グラフ キーワード」,「読み 地名」,「読み 漢字」などと入力するのも便利。

### 3. Web ページを評価させる

- ①典拠が示されているか(いつ、だれが作成したか)(情報の信頼性)

例：アメリカ合衆国の人口(・・年米国国勢調査より)

URL のドメインから発信者の所属がある程度わかる。

例： go.jp … 国内の政府機関, ac.jp … 大学等学術機関

ed.jp … 保育所から小中高校や盲学校など 18 歳未満を対象とした教育機関

Web サイトを引用する場合には、サイト名・発信者名・URL・閲覧日などを書かせる。発信者名を書くことで信頼性を意識させることができるだろう。

- ②統計数値は最新か。更新されているか。(情報の鮮度)

### 4. インターネットの情報の質を考えさせる

- インターネットは情報の伝達のスピードは速いが、信頼性の低いものもある。図書資料は情報の伝達は遅いが、編集の過程を経ているので信頼性は高い。インターネット利用では、信頼性の高い Web サイトを選ぶように指導する。低学年には教師側が適切な Web サイトを示すような工夫も必要である。
- 一つの Web サイトだけを見て納得するのではなく、複数の Web サイトを比較して自分で判断させる。  
検索エンジンの表示順は、必ずしも情報の信頼度と一致しない。検索結果の上位サイトだけを見ることのないように注意を促す。また最近では SNS を利用した検索を行い、従来の検索エンジンを使わない傾向もみられる。どのような検索方法で情報にアプローチしても、情報の信頼性を見極める力をつけさせたい。